



報告書



「川上村の雲」 藤岡牧夫

平成25年9月28日(土)・29(日)
 全国川サミット連絡協議会



発行 第22回全国川サミットin川上実行委員会

〒384-1405 長野県南佐久郡川上村大字大深山525
 川上村 政策調整室 内
 TEL:0267-97-2121
 FAX:0267-97-2125



《 目 次 》

I 開催概要

1) 全国川サミットとは	2
① 全国川サミットのこれまでの開催地	2
② 第22回 参加自治体	2
2) 川上村開催の意義	3
■ 参加自治体紹介	4

II 実施内容

1) 【第1日目】9月28日(土)	12
① 川上村村内視察	13
② 藤岡牧夫原画展観賞	14
③ DVD上映(川上村・千曲川紹介)	14
④ 全国川サミット連絡協議会総会	15
⑤ 首長サミット	17
講演	
首長意見交換	
2) 【第2日目】9月29日(日)	25
① オープニング「千曲源流太鼓」	26
② 第22回全国川サミットin川上 開会式	27
③ 川上第二小学校児童による「千曲川河川環境調査発表」	28
④ 記念講演 「流域文化に学ぶ」今井通子氏	31
⑤ アトラクション「クラリネットトリオ ルイエ」	34
⑥ サミット式典	35
3) 展示・併催イベント	38

III 第22回全国川サミットin川上を振り返って	40
---------------------------------	----

I 開催概要



1) 全国川サミットとは

一級河川と同じ名称または一級河川の流域にある全国の自治体が、「全国川サミット連絡協議会」を組織し、川がもたらす恵みや人々との関わりを生かしながら、川と共存するまちづくりを進めることを目的に、加盟自治体が持ち回りで開催しています。

平成4年富山県庄川町（現：砺波市）で第1回サミットが開催され、今回で22回目となりました。

① 全国川サミットのこれまでの開催地

開催回	開催地	開催テーマ	開催回	開催地	開催テーマ
第1回	富山県庄川町	川は未来に夢はこぼ	第12回	岡山県加茂川町	森と川が伝える ふるさとからのメッセージ ～水は生命の源～
第2回	北海道鶴川町	きらめきリバータウン ～川と人の未来を求めて～	第13回	奈良県十津川村	みんなで考えよう！河川環境
第3回	静岡県大井川町	夢と希望あふれる川づくり ～川は命、未来の子供たちへ引き継ごう～	第14回	兵庫県猪名川町	清流とともに暮らす ～ええやん猪名川50年～
第4回	兵庫県加古川市	川は友だち ～ひと・まち・川 ちよつと素敵な物語～	第15回	岐阜県揖斐川町	川面に暮らし 川とともに生きる
第5回	徳島県那賀川町	未来へ語ろう！私たち川家族	第16回	東京都江戸川区	川の恵みとその脅威
第6回	秋田県雄物川町	川がつなぐ 「ひと・まち・こころ」	第17回	群馬県みなかみ町	川を活かしたまちづくり・ 川と交流
第7回	宮崎県北川町	思い出いっぱい 不思議がいっぱい ～川を彩るホテルの光が子供たちへの贈り物～	第18回	秋田県横手市	川がはぐくむ「ひと・まち・こころ」 ～山と川のあるまちから～
第8回	愛媛県肱川町	21世紀へのメッセージ ～それは川から始まる～	第19回	兵庫県加古川市	川はともだち ～未来につなぐメッセージ～
第9回	三重県宮川村	川に愛される人になりたい ～ちよつと素敵な川家族～	第20回	新潟県長岡市	絆 ～川は流れ、地域をつなぐ～
第10回	兵庫県揖保川町	歴史に学び明日を見つめる川づくり ～ともに創ろう 川の未来 水の未来～	第21回	茨城県取手市	川とつながる私たち ～水・命・文化・そして夢と未来～
第11回	東京都江戸川区	暮らしにとけ込む、にぎわい川 ～都市の中の川を考える～	第22回	長野県川上村	流域文化に学ぶ

② 第22回 参加自治体

《全国川サミット連絡協議会》

秋田県横手市	新潟県長岡市	群馬県みなかみ町	茨城県取手市
千葉県香取市	東京都江戸川区	岐阜県白川町	岐阜県揖斐川町
兵庫県加古川市	長野県川上村		

《千曲川流域自治体》

長野県南牧村	長野県南相木村	長野県北相木村	長野県小海町
長野県佐久穂町	長野県佐久市	長野県小諸市	長野県上田市
長野県千曲市	長野県中野市	長野県飯山市	長野県木島平村
長野県栄村			

2) 川上村開催の意義

平成4年から始まった全国川サミットは、平成25年に第22回目を迎え、長野県川上村で開催されることとなりました。

川上村は、長野県の東南端に位置し、東に秩父連山、西に八ヶ岳を望みながら、群馬・埼玉・山梨の3県と接しています。全村が標高1,100メートルを超える高所にあり、日本一の長さを誇る千曲川（信濃川）はここから流れ出し、その清らかな水と冷涼な気候を活かした高原野菜が基幹産業となっています。

かつては、島崎藤村の千曲川のスケッチの中で「白米は唯病人に頂かせるほどの、貧しい、荒れた山奥の一つである」と記されたほどの大変貧しい地域でした。長い間の自給自足の主穀栽培農業に、昭和11年の小海線の開通が大きな変化をもたらし、昭和20年代半ばからはレタスの試作栽培が始まりました。その後、基盤整備事業等に積極的に取り組み、日本人の食生活の洋風化も追い風となり、生産量日本一のレタスをはじめとした高原野菜産地を築きあげました。近年では、各種の野菜消費キャンペーンや販路拡大を目的としたレタスの海外輸出事業を展開しています。

大河の一滴は、流域を潤し、豊かな実りを生み、産業を支え、その川の流れが作り出す景観が四季を通じて人々の心を和ませ、観光や文化を育んできました。今回の全国川サミットは、「流域文化に学ぶ」をテーマに、全国の自治体からの参加者と村民が、川と地域の関わりや川との共生について考え、交流を深め、川上村から湧き出る大河千曲川の恩恵を再認識し、連携を深めることを目的として開催しました。

◎ 第22回全国川サミット in 川上

開催日

平成25年9月28日（土）～29日（日）（2日間）

会場

川上村文化センター 他、川上村内各所

主催

全国川サミット連絡協議会 川上村（第22回 全国川サミット in 川上実行委員会）

協賛

長野県河川協会

後援

国土交通省北陸地方整備局 長野県 信濃毎日新聞社 NHK長野放送局
SBC信越放送 NBS長野放送 TSBテレビ信州 a b n長野朝日放送

■ 参加自治体紹介

[1] 秋田県 横手市 (よこてし)



●人口/99,005人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/34,361世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/693.04km²
●市の木/りんご
●市の花/さくら



雄物川河川公園

秋田県の南部に位置する横手市は、平成17年10月の8市町村合併により人口が秋田県下第2位の都市となりました。

横手盆地の中央に位置し、横手川と流域面積全国13位の「雄物川」が貫流しています。雄物川の河川公園は、平成21年度に国土交通省の「川の通信簿」で最高評価となる5つ星を獲得しました。

代表的な冬の祭りがまくらは、水神様を祀ります。東北有数の豪雪は、春には豊富な雪解け水となって田畑を潤し、人々の生活を支えてきました。

農業は横手市の基幹産業であり、「あきたこまち」「りんご」「山内いものこ」「ホップ」、B-1グランプリでゴールドグランプリを受賞した「横手やきそば」など、食における横手ブランドが揃っています。

[2] 新潟県 長岡市 (ながおかし)



●人口/281,498人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/103,434世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/590.91km²
●市の木/ケヤキ
●市の花/ツツジ



信濃川と長生橋

長岡市は、日本一の大河・信濃川が市内中央をゆったりと流れ、市域は福島県境近くの守門岳から日本海まで広がる人口28万人のまちです。平成17年度に9市町村と、平成21年度に1町と合併し、長岡まつりや山古志の牛の角突き、寺泊の海の恵み、四季折々の自然など、個性ある11の地域の魅力が輝いています。平成16年の中越大地震災をはじめとした相次ぐ災害にも、「米百俵」の精神を受け継ぐ市民の力で復興を成し遂げました。長岡市は、「前より前へ!長岡人が育ち地域が輝く」を合言葉に、「市民力」「地域力」そして「市民協働」の力を活かし、シティーホールプラザ「アオーレ長岡」「子育ての駅」など全国にさきがけたまちづくりを進めています。

[3] 群馬県 みなかみ町 (みなかみまち)



●人口/21,242人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/8,180世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/780.91km²
●町の木/ブナ
●町の花/やまがき



利根川でのラフティング

みなかみ町は、谷川岳をはじめとする上越国境の山々に抱かれ、その雄大な自然から生じた生命の水をおくる「水と森を育む利根川源流の町」であり、首都圏の水瓶として利根川流域3,000万人の生命と暮らしを支える重要な責務を担っています。日本一流域面積の大きな川「坂東太郎(利根川)」と赤谷川の河岸段丘に沿って発展してきたみなかみ町。谷川岳の「一ノ倉沢・マチガ沢」に代表されるような国内第一級の山岳地や森林、清らかな水が流れ、蛍が舞う美しい田園、町内各地に湧き出る豊富な温泉などの大自然を地域の資源として活かしつつ、交流を通じて基幹産業の観光業と農業を活性化し、まちづくりに取り組んでいます。

[4] 茨城県 取手市 (とりでし)



●人口/109,791人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/45,751世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/69.96km²
●市の木/セキセイ、グツクイジュ
●市の花/ツツジ、アジ



小堀の渡し

取手市は、茨城県の南端部に位置し、南を「坂東太郎」と呼ばれ親しまれた一級河川「利根川」、北から東をその支流の「小貝川」が流れ、江戸時代には高瀬舟が行きかい、江戸への舟運の要衝として栄えました。また、水戸街道の宿場町として、人・物資・文化の交流で賑わいを見せていました。

首都圏から約40km、時間にして約40分という交通の利便性に恵まれた位置にあることから、昭和40年代からの高度経済成長期には、大規模住宅開発により人口が増加し、首都圏のベッドタウンとして発展してきました。常磐線快速や地下鉄千代田線が取手駅まで乗り入れ、茨城県の南の玄関口となるなど首都圏近郊でありながら、豊かな水と自然に触れあえる都市となっています。

[5] 千葉県 香取市 (かとりし)



●人口/82,656人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/30,136世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/262.31km²
●市の木/サクラ
●市の花/アヤメ

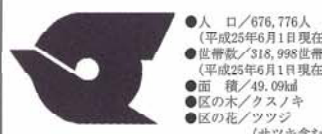


歴史的町並みと小野川

香取市は、千葉県の北東部に位置し、北部は茨城県と接しています。東京から70km圏にあり、世界への玄関、成田空港から15km圏に位置しています。北部には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、その流域には関東一の米産地を誇る水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平坦地で北総台地の一角を占めています。

日本の原風景を感じさせる田園・里山や、水郷筑波国定公園に位置する利根川周辺の自然環境をはじめ、東国三社の一つ「香取神宮」、江戸時代から昭和初期に建てられた商家や土蔵が現在もその姿を残し、関東地方で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されるなど、水と緑に囲まれ、自然・歴史・文化に彩られたまちです。

[6] 東京都 江戸川区 (えどがわく)



●人口/676,776人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/318,998世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/49.09km²
●区の木/クスノキ
●区の花/ツツジ (サツキ含む)



江戸川区全景

江戸川区は東京都の東端部に位置し、西に荒川、東に江戸川など7つの一級河川と海に囲まれた水辺環境の豊かなまちです。全国の親水公園の先駆けとなった古川をはじめ、区内には総延長27kmの親水公園、親水緑道が流れ、潤いのある快適な都市空間を実現しています。その豊かな水辺を舞台に、第11回サミット(in江戸川)、第16回サミット(in荒川)を開催するなど、川とのふれあいや自然環境の保全・創出に努め、新たな都会の水辺環境を創出しています。一方、災害に強い江戸川区を目指し、区民の皆さんと協働でスーパー堤防整備などの治水対策にも積極的に取り組み、安全で安心なまちづくりを進めています。

[7] 岐阜県 白川町 (しらかわちょう)



●人口/9,456人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/3,186世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/237.89km²
●町の木/ひのき
●町の花/岩つつじ



茶畑と水田

「水源の里の恵みいっぱい 活力みなぎる人たちが暮らすまち 美濃白川」

本町は、岐阜県の東部中濃に位置し、東西約24km、南北約21kmで237.89km²と広大な面積を有しており、その約87%は山林。町の西端を木曾川水系の飛騨川が流れ、それにそそぐ、佐見川(さみがわ)、白川(しらかわ)、黒川(くろかわ)、赤川(あかがわ)が扇状に東側に伸び、それらの流域に集落が点在しています。豊かな山林資源を生かした木材産業や、山間を流れる清流が生み出す独特の気候風土を生かした茶の栽培が盛ん。『東濃桜(ヒノキ)のまち』『白川茶のまち』としても有名です。

近年過疎化、高齢化が進む中、地域の農地を守るため、集落営農の組織化を図り、水稲、大豆を栽培し、町内産大豆を100%使用したとうふの製造など6次産業化を推進しています。

[8] 岐阜県 揖斐川町 (いびがわちょう)



●人口/23,470人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/8,108世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/803.68km²
●町の木/けやき
●町の花/はなもも



徳山ダム

揖斐川町は、岐阜県の最西部に位置し、北側は福井県、西側は滋賀県と接しています。総面積803.68平方キロメートルのうち森林が91パーセントを占める緑豊かな町です。町の中心を流れる揖斐川の最上流部には、日本一の貯水容量を誇る徳山ダムがあり、流域の住民を水害から守り、豊かな水の恵みを下流へと届けています。ダム湖周辺の山々は四季折々の姿をみせる風光明媚な場所としても観光客からも人気があります。濃尾平野の最北端にあたる町の南部地域は、なだらかな傾斜と水はけの良い地質がお茶の栽培に適しており、特産の「いび茶」の産地となっています。

また、今も多くの歴史が残る揖斐川町には、西国三十三カ所巡りの最終札所「谷汲山華嚴寺」や美濃の正倉院と呼ばれる「両界山横蔵寺」など、多くの寺社仏閣があり年間を通して多くの参拝客が訪れます。

秋に行われる町をあげてのスポーツイベント「いびがわマラソン」は、コースの景観と沿道の応援がランナーに定評で毎年1万人を超えるエントリーがあります。

[9] 兵庫県 加古川市 (かこがわし)



●人口/268,175人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/102,825世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/138.51km²
●市の木/くろまつ
●市の花/つつじ



加古川俯瞰

加古川市は、兵庫県下最大の一級河川「加古川」の恵みを受けて発展してきた都市です。

江戸時代には山陽道の「加古川宿」として本陣・陣屋が設けられ、高瀬舟の往来でにぎわいました。現在、臨海部には国内有数の製鉄所があり、内陸部では建具・靴下などの地場産業が営まれています。

JR加古川駅や東加古川駅周辺では都市機能の充実を図る一方、国宝鶴林寺など歴史ある神社仏閣や豊かな自然を保全しています。市ゆかりのプロ棋士5名が活躍していることから、平成23年に若手の登竜門となる日本将棋連盟公式戦「加古川清流戦」を創設して「棋士のまち」の活動を推進するなど、だれもがいきいきと暮らす活気のあるまち、誇りや愛着を持ち、「いつまでも住み続けたい ウェルネス都市 加古川」の実現に向け躍進しています。

[10] 長野県 南牧村 (みなみまきむら)



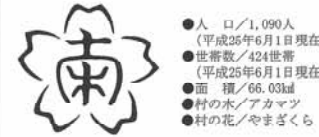
●人口/3,201人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/1,099世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/133.1km²
●村の木/オヤマザクラ
●村の花/スズラン



高原野菜と八ヶ岳

南牧村は長野県の東端に位置し、八ヶ岳東斜面の標高1,300～1,400mの野辺山高原、北部の千曲川流域の狭い平地からなり、南から北へ千曲川が流れる、冷涼な気候・環境に恵まれた高原の村です。文献によると八ヶ岳は、千百年程前、突然水蒸気爆発を起こして崩れ、川をせき止め海ができたとあります。南牧村には、海ノ口、海尻という地名がありますが、これらの地名が今に残っていることから領けます。また野辺山は戦前、陸軍省に実弾射撃訓練用地として強制収用されましたが、戦後払い下げられ、復員軍人や引き揚げ者によって開墾の鉞が打ちこまれました。寒さと飢えをしのぐ筆舌に尽くせない苦労を重ねて今日まで高原野菜と酪農の村として発展してきました。近年では野辺山宇宙電波観測所とともに「天文学者27人が選ぶ国内の星空スポットベスト3」に野辺山高原が選ばれ注目されています。

[11] 長野県 南相木村 (みなみあいきむら)



●人口/1,090人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/424世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/66.00km²
●村の水/アカマツ
●村の花/やまざくら

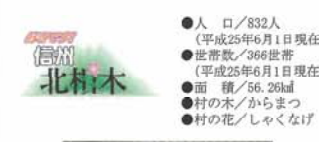


南相木ダム

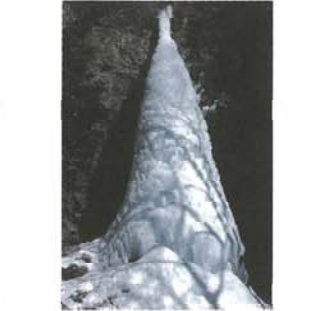
南相木村は長野県の東南端の群馬県境に位置し、西は小海町、北は北相木村に連なり、南は川上村・南牧村に隣接した山間の細長い村です。周囲の山々に囲まれ起伏に富んでいるため、村を流れる千曲川の支流南相木川の流域は急流が多く落差16mの「名勝 おみかの滝」や日帰り温泉「滝見の湯」が隣接する「犬ころの滝」「日本の山200名山」の1つに数えられる「御座山(おぐらさん)」の中腹に存在する「不動の滝」など様々な滝が7つ存在しています。

村の基幹産業である農業は白菜などの高原野菜が盛んで主に東京・中京方面に出荷されます。また南相木村に代々受け継がれている在来品種の蕎麦「相木一号」は成分分析の結果「他の品種より味・香りともに強い傾向がある」と評価されました。また立岩湖は長野県が初めて事業規模で人口ふ化に成功した「シナノユキマス」の生息に適した全国でも数少ない湖で、冬は結氷した湖の上での穴釣りや賑わいを見せています。

[12] 長野県 北相木村 (きたあいきむら)



●人口/832人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/366世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/56.26km²
●村の木/くろまつ
●村の花/しゃくげ



三滝山の氷柱

昭和35年に2,104名であった人口が平成15年に1,000人を割り込み、現在は830名と激減し全国でも下から21番目(離島も含む)という現状です。

Iターン事業・山村留学事業等に活路を拓くべく努力し、現在のIターン人口は全体の20%を占めており、また山村留学生は15名(中学生2人を含む)と小学校全校児童数43名の30%を占めています。

豊かな緑と太古以来とうとうと流れを止めぬ相木川の清流、細やかな村民の人情こそ村づくりの貴重な資源であり、この資源を活かしたこれからの村づくりに新たなスタートを模索しています。

[13] 長野県 小海町 (こうみまち)



●人口/5,196人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/2,062世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/114.19km²
●市の木/カラマツ
●市の花/ヤマザクラ
ドッグラン付



松原湖

長野県の東部、南佐久地域のほぼ中央に位置し、東は北相木村、西は八ヶ岳連峰を境に茅野市、南は南牧村・南相木村、北は佐久穂町(旧八千穂村)にそれぞれ接しています。

町の中央を南北に流れる千曲川に沿って帯状の平坦地が形成され、ここを国道141号、JR小海線が走り、町の主要な交通路となっています。千曲川の左岸(西部地域)は八ヶ岳連峰の裾野が広大な傾斜地として広がり、右岸(東部地域)は秩父山塊の裾野の段丘帯となっています。

標高1,270mに位置する町営「八峰の湯(ヤッホーの湯)」は、広々とした大浴場と開放感あふれる露天風呂が自慢の源泉かけ流しの湯です。

[14] 長野県 佐久穂町 (さくほまち)



●人口/12,145人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/4,318世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/188.13km²



苔の森『白駒の池』

佐久穂町は長野県の東南部に位置し東西に30km、南北に短く町の中央部に千曲川の清流が流れ、その沿岸を国道141号とJR小海線が走る北八ヶ岳山麓の町です。八ヶ岳中信高原国定公園の東にある標高1,600m周辺の八千穂高原には東洋一と呼ばれる「白樺林」が存在し、高原の遅い春の5月には早朝の霧の中に見え隠れする紫のミツバツツジとのコントラストは幻想的で多くの観光客、写真家を魅了しています。また、標高2,100mにある白駒の池周辺にはシラビソやコマツガの原生林が広がり、日本の貴重な苔の森百選に選定されている苔の絨毯が広がっています。

平成28年度目標に中部横断自動車道の佐久南IC~八千穂IC間の整備が進められており、東西に走る国道299号メルヘン街道ともつながるルートとなり沿線の地域は勿論ですが、地元地場産業や新たな産業振興の連携交流により、異技術融合、異業種交流が活発化し、より一層の発展と観光の活性化が期待されます。

[15] 長野県 佐久市 (さくし)



●人口/100,130人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/39,077世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/423.99km²
●市の木/からまつ
●市の花/コスモス



佐久バルーンフェスティバル

佐久市は、長野県下4つの平の一つ、佐久平の中央に位置し、市の中央を詩情豊かな千曲川が流れ、浅間山、八ヶ岳、蓼科山、荒船山など雄大な山並みに抱かれた美しい高原都市です。

長野新幹線、上信越自動車道が東西に走り、首都圏へのアクセスに優れています。また、佐久小諸ジャンクションから佐久南インターチェンジまでの間が一部開通した中部横断自動車道は、さらに南に向けて整備が進んでいます。高速ネットワークの拡充に伴い、日本のほぼ中央に位置する佐久市は、高速交通網の結節点、交流圏の拠点として、飛躍的な発展が期待されています。

恵まれた自然環境、広がる高速交通ネットワーク、さらには全国有数の健康長寿都市として培ってきた保健、医療など優位性や特性を生かしながら、佐久市にしかできないまちづくりを進めています。

[16] 長野県 小諸市 (こもろし)



●人口/43,724人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/18,120世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/98.66km²
●市の木/梅
●市の花/モロコシ



浅間山

小諸市は、北に雄大な浅間山がそびえ、南から西に清流千曲川が流れるなど、豊富な自然と、小諸城址懐古園をはじめとする歴史的文化遺産が多く残るまちです。また、洋画家 小山敬三や日本画家 白鳥映雪などの偉大な芸術家を輩出するとともに、文豪 島崎藤村や近代俳句の巨匠 高濱虚子などの多くの文人を惹きつけたまちでもあります。

かつては、東山道、北国街道、甲州街道の交わる交通の要衝、物資の交流の盛んな城下町、商業都市として栄えましたが、時代の変化とともにその形態は変わり、現在では、小諸厚生総合病院の再構築と併せて市庁舎、図書館等の市庁舎敷地一体での整備を進めており、都市機能や生活に必要な機能を集中させるコンパクトシティによる新たなまちづくりを進めています。

[17] 長野県 上田市 (うえだし)



●人口/161,351人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/65,476世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/552km²
●市の木/イチョウ
●市の花/さくら



上田城と桜

上田市は平成18年に1市2町1村が合併して誕生した長野県東部にある中核都市です。北は上信越高原国立公園の菅平高原、南は八ヶ岳中信高原国定公園に指定されている美ヶ原高原などの山々に囲まれ、佐久盆地から流れ込む千曲川が市の中央部を東西に通過し、長野盆地へと流れていきます。

晴天率が高く、全国有数の少雨乾燥地帯で、この気象条件を活かした農業は、標高の低い平坦地では水稲・果樹・花き、高冷地では野菜が主力です。

かつての蚕糸業で培われた技術的基盤や進取の精神は機械金属工業に受け継がれ、現在では輸送関連機器や精密電気機器などを中心とする製造業が地域経済を牽引しており、高度な技術をもつ企業の集積が見られ、県内屈指の工業地域となっています。

また多くの観光地を有し、菅平高原、上田城、「信州の鎌倉」塩田平、別所温泉、鹿教湯温泉、美ヶ原高原などに、年間約400万人が訪れています。

[18] 長野県 千曲市 (ちくまし)



●人口/61,258人
(平成25年6月1日現在)
●世帯数/21,829世帯
(平成25年6月1日現在)
●面積/119.84km²
●市の木/あんず
●市の花/あんず・部分草



千曲川と戸倉上山田温泉

平成15年9月1日に更埴市、戸倉町、上山田町の1市2町が合併し、市内の中央を流れる千曲川の名前をとって千曲市が誕生しました。市は長野県北信地域の南東部に位置し、西は冠着山、東は鏡台山をはじめとする山地に囲まれ、そのほぼ中央を、東南から北東に大きく曲がりながら日本一長い千曲川(信濃川)が流れ、千曲川をはさんで両岸には平坦部が広がり、北は善光寺平に接しています。

古くから善光寺詣りの精進落としの湯として栄えてきた戸倉上山田温泉は、開湯100年を経た信州屈指の温泉街で、周囲には芭蕉も眺めた姨捨山を望む「さらしなの里」、重要文化的景観に選定された棚田の「名月の里」、この春に天皇皇后両陛下が訪れた「あんずの里」が広がる魅力ある観光地です。

[19] 長野県 中野市 (なかのし)



- 人 口/46,548人 (平成25年6月1日現在)
- 世帯数/16,522世帯 (平成25年6月1日現在)
- 面積/112.00km²
- 市の木/リンゴ
- 市の花/バラ
- 市の木/シャクヤク



千曲川と高社山

中野市は、童謡から流行歌まで多くの作曲をした中山晋平と、「故郷」「春の小川」など唱歌を作詞した高野辰之を生んだ市と村が、その境界だった千曲川を新市のシンボルに変え、平成17年4月1日に合併しました、東西11km南北16kmの小さなまちですが、多くのスキー場や温泉のある北信の玄関口にあり、鉄道のJR・長野電鉄のほか、上信越自動車道の2つのICからアクセスできます。

市街地は、志賀高原に源を発する夜間瀬川が千曲川に向かって造る扇状地に用水路を引いて発達し、郊外には唱歌「故郷」に歌われた里山の風景が広がります。農業が盛んで、キノコのえのきたけや花のシャクヤクは日本一の産地です。また、寒暖差が大きく降水量が少ない気候のもと、灌漑によるリンゴやブドウの栽培も盛んで、中心となる八ヶ郷用水は疎水百選に選定されています。うまい果物と美しいバラと懐かしい土人形のまち、信州中野に寄ってかねかい。

[20] 長野県 飯山市 (いいやまし)



- 人 口/23,301人 (平成25年6月1日現在)
- 世帯数/8,199世帯 (平成25年6月1日現在)
- 面積/202.32km²
- 市の木/ブナ
- 市の花/ユキツバキ



菜の花公園から千曲川を望む

飯山市は長野県の最北部に位置し、市の中央を南北に、日本一の大河「千曲川」が流れる盆地です。

市内には、水系全長367kmの千曲川(信濃川)の中間点に位置することから「中央橋」と名付けられたと言われる橋があります。また、親水公園、カヌーポイントが整備され、愛好家や都会から自然体験に訪れる学生など、多くの人が千曲川に親しんでいます。

千曲川の優雅な流れを望むことができる菜の花公園は、高野辰之の唱歌「朧月夜」のイメージそのものの場所で、「信州のサンセットポイント100選」にも選ばれており、多くの写真家が訪れます。毎年、菜の花の開花時期であるゴールデンウィークには「菜の花まつり」が開催され、多くの人で賑わいます。

2015年春には、北陸新幹線飯山駅が開業の予定です。

[21] 長野県 木島平村 (きじまだいらむら)



- 人 口/4,721人 (平成25年6月1日現在)
- 世帯数/1,576世帯 (平成25年6月1日現在)
- 面積/99.31km²
- 市の木/ケヤキ
- 市の花/福寿草



国内で最高の評価を得ているコシヒカリと村のシンボル高社山

木島平村は樽川、馬曲川の扇状地で西端を千曲川が流れる長野県北部の村。清い水、昼夜の温度差が美味しい米づくりに適し、江戸時代から寿司米産地として有名でした。近年は有機栽培や減農薬・減化学肥料栽培に先進的に取り組み、コシヒカリは最高評価を得ています

(昨年、本村で米食味分析鑑定コンクール国際大会を開催。「国際総合部門」金賞ほか/「全国農業高校お米甲子園」では地元下高井農林高等学校が金賞)。

本村では平成21年より「農村文明」、すなわち日本の農山村が有する食料生産、水源涵養等の多面的機能に加え、稲作を中心に森と水の循環系を守りつつ、自然と共生して農耕生活を営む中で築いてきた歴史的、文化的、教育的な価値、地域で支え合う機能に磨きをかけ、自然と共存することを提唱し、この「農村文明」の創生を村づくりの大きな柱として位置づけています。

[22] 長野県 栄村 (さかえむら)



- 人 口/2,179人 (平成25年6月1日現在)
- 世帯数/904世帯 (平成25年6月1日現在)
- 面積/271.51km²
- 市の木/桐
- 市の花/カタクリ



「初冬」秋山郷の天池から望む鳥甲山

長野県の最北端に位置する本村は、山々に囲まれており、7m85cmの積雪量を記録したこともある全国でも有数の豪雪地です。北部を千曲川が東西に横断し、志久見川・中津川が南北を縦断して流れ、それらの川の沿岸平坦部に集落を形成しています。南部は鳥甲山、苗場山を中心に2,000m級の山々が連なっており、大勢の登山愛好家が訪れます。また、千曲川沿いの野々海高原や温泉施設などでアウトドアなどを楽しむことができます。

豊かな自然と温泉資源に恵まれており、東京などの首都圏からは新幹線、高速道路などを利用すれば、ごく短時間のうちに訪れることのできる、魅力あふれる村です。

[23] 長野県 川上村 (かわかみむら)



- 人 口/4,101人 (平成24年6月1日現在)
- 世帯数/1,245世帯 (平成24年6月1日現在)
- 面積/209.61km²
- 市の木/からまつ
- 市の花/しんぐなげ



千曲川(信濃川)の源流

川上村は全村が標高1,100メートルを超える高所にあり、千曲川(信濃川)源流の清らかな水と冷涼な気候条件に恵まれた高原野菜産地です。かつては島崎藤村が千曲川のスケッチの中で、「白米は唯病人に頂かせるほどの、貧しい、荒れた山奥の一つである」と記したほどの、隔絶された大変貧しい地域でありました。しかしながら、今日に至るまでには先人たちのたゆみない努力と苦難の歴史があります。

長い間の自給目的の主穀(雑穀)栽培農業に、昭和11年の小海線開通が大きな変革をもたらし、出荷野菜として白菜の栽培が始まり、キャベツ、大根を組み合わせた農業を経て、昭和20年代半ばからレタスが試作導入されました。その後、日本人の食生活の変化とともに、県営パイロット事業等の基盤整備事業に積極的に取り組み、生産量日本一のレタスをはじめとした高原野菜産地を築きあげてきました。近年では、各種スポーツイベントを活用した野菜消費キャンペーンやレタスの海外輸出など次世代に向けた新たな挑戦が始まっています。

【第1日目】

9月28日(土)

川上村村内視察

藤岡牧夫原画展観賞

DVD上映(川上村・千曲川紹介)

全国川サミット連絡協議会総会

首長サミット



① 川上村村内視察

生産量日本一を誇る川上村のレタスなどを集荷・発送する川上そ菜販売農協では、集荷場設備と264パレットを収納できる高鮮度保持立体予冷库を視察しました。

その後、広大な高原野菜畑を両側に観ながらバスで移動し、金峰溪谷と廻り目平観光施設を視察しました。好天に恵まれる中、断崖絶壁を登るロッククライマーや観光施設でキャンプを楽しむ家族が多く見られ、千曲川の源流に近い観光スポットの賑わいをご覧いただくことが出来ました。また、文化センターへの帰路、車中で川上村ならではの味「レタスアイスクリーム」をお楽しみいただきました。

▼川上そ菜販売農協



そ菜販売農協前



農協職員からの概要説明



大規模な集荷場



鮮度保持設備



高鮮度保持立体予冷库内を順次視察



高鮮度保持立体予冷库の内部

▼金峰溪谷と廻り目平観光施設



金峰溪谷



断崖絶壁のクライマー等を見上げる



お殿様岩とお姫様岩



廻り目平キャンプ場



キャンプを楽しむ家族



キャンプ場近くの千曲川上流域

②藤岡牧夫原画展観賞

長野県出身の絵本作家・イラストレーターで、本サミットの開催に寄せて「川上村の雲」を描いた藤岡牧夫氏の著書「ささ舟カヌー 千曲川スケッチ」の原画展を川上村文化センターの展示室で特別開催、藤岡氏本人による説明とともに20余点の「千曲川の風景」を観賞しました。



③DVD上映

川上村の概要を紹介するDVDと、本サミットのために特別編集した千曲川のDVDを、文化センター内のハイビジョンシアターにて約30分上映しました。



④全国川サミット連絡協議会総会

川上村文化センター内のからまつ広場に参加自治体が一堂に会し、全国川サミット連絡協議会総会が執り行われました。

以下の報告事項及び協議事項が審議され、全て満場一致で承認されました。

なお、今後の全国川サミット開催予定については、平成26年度第23回サミットの千葉県香取市での開催が確認され、さらに平成27年度第24回サミットを新潟県新潟市で開催することが承認されました。



【次第】

- 開会の辞 川上村副村長 川上 芳夫
- 会長挨拶 平成25年度全国川サミット連絡協議会 会長 藤原 忠彦
- 来賓祝辞 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 渥美 雅裕 氏
- 来賓紹介 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 渥美 雅裕 氏
 国土交通省 北陸地方整備局 河川部長 入江 靖 氏
 国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所長 宮武 一郎 氏
 国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所長 福渡 隆 氏
 国土交通省 北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所長 瀬崎 智之 氏
 長野県 佐久建設事務所長 石井 杉男 氏
 川上村議会 議長 由井 美成 氏

○参加状況報告

○議事

【報告事項】

- ・第1号 第21回全国川サミットin取手 事業報告について
- ・第2号 第21回全国川サミットin取手 収支決算について

【協議事項】

- ・第1号 第22回全国川サミットin川上 事業計画(案)について
- ・第2号 第22回全国川サミットin川上 収支予算(案)について
- ・第3号 第22回全国川サミットin川上 共同宣言(案)について
- ・第4号 今後の全国川サミット開催予定について

○閉会の辞 川上村副村長 川上 芳夫

○開会の辞



川上村副村長
川上 芳夫

○会長挨拶



全国川サミット連絡協議会会長・川上村長
藤原 忠彦

○来賓祝辞



国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課長 渥美 雅裕氏

○平成27年度開催予定市挨拶



新潟市 河川海岸砂防室
室長 濱崎 憲夫氏

⑤首長サミット

[講演] 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 渥美 雅裕氏
「最近の河川行政報告」



◎国土交通省水管理・国土保全局の業務の紹介

■防災・減災

A. 平成25年の「出水」の状況

- ◆7月 石川県「梯川」 今年の出水の始まり。治水の成果で大きな被害は無し。
- ◆8月 岩手県「北上川水系」 盛岡市を中心とした豪雨で、多くの被害が出た。
- ◆9月 台風18号が本州に上陸

▶京都府「淀川水系・桂川」 渡月橋に濁流がぶち当たる。

※京都市内で一部堤防から水が溢れたが、水防活動で決壊には至らず。

▶青森県「岩木川」 最高水位を記録し、氾濫。

※甚大な被害。りんご園は出荷不能に。

⇒治水事業を計画的に進めることが重要である。

- ・「梯川」は堤防の拡幅工事で川幅を1.5倍に広げたため、大量の水を流し切った。
- ・盛岡周辺は2つのダムの常設工事の結果、水位を4m下げることに成功。もし両ダムが無ければ、約5,500億円の被害を受けたと推察。

B. 平成25年の「渇水」の状況

- ◆利根川水系・豊川水系・吉野川水系で渇水が発生。

⇒国土交通大臣を本部長とした「渇水対策本部」を設置し、

「渇水調整の支援」「路面清掃車を給水車に代替利用」等の対応をした。

台風18号の降雨により、最大で50%の止水制限にとどまった。

■河川環境の改善

- ◆水質浄化の取り組み 例：導水事業の実施で、松江堀川遊覧船の客数増加。
- ◆学校での防災教育 子どもが安心して水に触れ合える河川空間を。
- ◆「日本の川」に国際的に誇れる、風格・品格のある河川空間をつくり出していく。
- ◆治水と同時に「自然環境との折り合い」を。 例：「湿地」の再生。

◎本サミットのテーマ「流域文化に学ぶ」に関連する一例

■岩手県「胆沢扇状地」の水文化・流域文化

今年11月に竣工する「胆沢ダム」。

十数年前の着工時、地域の水文化における胆沢ダムの位置付けを自分なりに整理した。

⇒500年にも亘り「堰」の文化だった胆沢扇状地に、大量の水を蓄えるダムを造り、「水不足」を解消。

※「ダム」から話すのではなく、「堰」から話をして、流域の水文化に理解を得た。

そうした結果、ダムの必要性を理解してもらえたと自負している。

- ◆地域ごとに深い歴史・文化がある。

我々はものづくりの省庁として、地域の皆様から歴史・文化を教えていただき、深く学び、それを踏まえて仕事をしていきたい。

[首長意見交換] ※発言の要旨

□ 長野県川上村 藤原 忠彦 村長

川上村は標高の高い寒い村で、昔から食べるものができない村でしたが、戦後この寒さを利用して高原野菜の一大産地化に成功しました。きっかけは昭和26年の朝鮮戦争でした。米軍が本国から朝鮮半島にレタスを運べないので、どうしても近いところでレタスを調達したいというものでした。秋から冬にかけての野菜は九州でも四国でもどこでも作れるんですが、真夏には野菜がなかなか作れない、それが川上ならできるということで米軍によって導入されました。それがきっかけで戦後の食生活の改善とともに時流に乗った訳です。そしてまた村でもこれしかない、選択の余地が無いところからその地域に合ったものということで、情熱を集中させました。



今は全国一のレタスの生産地になっていますし、専業農家が減らないという村でもあります。多少人口も減っていますので、農家数も減っていますが、生産量と耕作面積は全く減らない、必ず減った分は誰かが作るということと、今はむしろ山梨県の耕作放棄地を、春の早い時期と秋の遅い時期を川上の後継者が行って数十ha作っております。県境を越えて他県の耕作放棄地を栽培しているという現象も起きています。大変な市場産業なので、相場に左右され、捨てる量も多い時がありますが、今年は高温多雨ということで他の産地が厳しい中、川上の野菜は比較的良好で推移しています。もしかすると1億円農家も出る可能性があります。景気に左右される産業ではありますが、それでも皆さん、どんなに悪くても這い上がってくるという活力がありまして、後継者も完全に定着してますし、都会からも嫁さんが来てくれています。

そんなことで、農協は生産・販売に力を入れる、行政はPRや海外輸出等も担当しております。野菜に懸ける情熱は村も農協も村民も大変強いものがありまして、これからは野菜でいきましょうという方針は何ら変わっておりません。もしかするとレタスが減って他の野菜になる可能性もありますが、高原野菜の産地であり続けたいという信念を持ってやっております。

野菜は水と深い関係がありまして、たまたま昭和42年に当時の建設省河川局が水利権の改正を行い、その時新たに慣行水利権と許可水利権という2つの権利を作り、慣行水利権で全部川上村がいただきました。川上村には東電も中電も関電も全く水域が係っておりません。ですから畑の灌水は全て使わせていただいております。何ら問題は無く、上流という先取特権もありますが、水があることによって条件が良くなった、そういう立地を作り上げております。これも全て水であります。水とは切っても切れない野菜産業であります。



また、皆さんの机の上にありますミネラルウォーターですが、昨年の7月に千曲川の源流地域で採水をし、「上つ瀬の水」という名前で作りました。「上つ瀬」というのは万葉言葉であると思いますが、上流のことを言うそうです。江戸時代に川上村の苦学生がおりまして、「千曲川 この上つ瀬は 濁さじな 同じ流れをくむ 君がため」と、もう江戸時代から上流は綺麗に下流に流

さなければいけないということを謳っています。いかに水を綺麗にしなければいけないかということは、本当に昔からのことでもあります。ですから、その責任を感じて、今も綺麗な水を下流に流す努力をしております。

□ 秋田県横手市 鈴木 信好 副市長

市内では雄物川と、支流の成瀬川・横手川がありまして、特に雄物川の河川公園は、平成21年度国土交通省「川の通信簿」で最高ランクの“5つ星”をいただいております。それを丁寧に守っていきたくと思っています。



合併後、増田町というところに「内蔵(うちくら)」というものがあることが判りました。内蔵は人に見せないものとしてずっときた訳ですが、あるきっかけで見せたら、これは凄いいいということで、文化庁の調査の結果、内蔵だけでなく、町並みも凄いいいということで、秋田県では角館に次いで2つ目となりますが、重要伝統的建造物群保存地区に選定していただくように、今、文化庁に申請しております。

□ 新潟県長岡市 中野 一樹 理事

最初に、先般の7月・8月の豪雨災害に関しまして、全国の皆様方から温かいご支援をいただきましたこと、この場を借りて心から御礼申し上げます。大変ありがとうございました。



市内の河川が氾濫しまして、住宅が床上浸水する等、大きな被害が発生しました。改めて市内を流れる中小河川の整備が重要であることを思い知らされました。

そんな中、それらの多くの中小河川が流れ込む信濃川の下流部にある大河津分水路の抜本的な改修が、越後平野を水害から守るための柱になると考えています。長岡市では国に対し、事ある毎に強く要望しています。これについては長岡市も全面的に協力する所存ですので、是非よろしくお願い致します。

□ 群馬県みなかみ町 鬼頭 春二 副町長

町内には、利根川水系8つのダムのうち、4つのダムがあります。総貯水量の合計は約4億トンで、利根川水系の55%に相当します。



基幹産業は、観光業と農業です。
観光業は、町内に18の温泉があり、ホテル・旅館など宿泊施設で1日あたり最大1万2千人を受け入れることができます。豊富な温泉は季節を問わず楽しめますので、是非皆様みなかみ市にお出掛けください。

農業は稲作の他、果樹、主にリンゴの栽培が盛んに行われています。果樹は観光果樹園として訪れたお客様に収穫体験をしながらお買い求めいただいております。

□ 茨城県取手市 藤井 信吾 市長

昨年は取手市におきまして、第21回全国川サミットを開催させていただきました。皆様方にお越しいただきまして、本当にありがとうございました。

私は、全国川サミットは友好都市であるみなかみ町で行われた第17回から一度も欠席せずに6回続けて頑張っております。また来年も出席したいと思っています。



川のつながりは非常に大事だと思っています。そうした中、川が県境を走っていることもあり、取手市が事務局という形をとり、国土交通省の利根川下流河川事務所のご協力をいただき、平成20年から利根川舟運・地域づくり協議会を結成して、18市町村で利根川の上下間の連携で沿線の交流や連携、いろいろな共通課題の解決に向けて頑張っております。

□ 千葉県香取市 宇井 成一 市長

香取市は千葉県北東部に位置しまして、市の北側の部分に利根川が流れている自然豊かなまちです。

関東一のコメの産地で、もちろん農業用水として利根川から水の恩恵を受けています。サツマイモは加工用のイモを除くと日本一の産地となっています。

利根川の支流で市街地を流れる小野川周辺ですが、江戸時代から利根川の通運で栄えた歴史的な町並みが現在でも残っており、関東で初めて平成8年に国の重要伝統的建造物群保存地区に指定され、利根川とともに歩んできた歴史があります。



□ 東京都江戸川区 高井 聖 土木部長

江戸川の最下流のまちで、かつては東京湾に流れる川も非常に水質が汚れていた時期がありましたが、それを見ると今は隔世の感があると感じます。

川が綺麗になれば、魚が棲む、昆虫が棲む、それを追って鳥がやって来る。そして町中も水の流れる潤いの公園、親水公園がありますが、緑化事業を進めましたので、そちらに花が咲いて、昆虫が来る、鳥がやって来る、という形で新たな生態系も出てきて、こういった環境のもとでボランティア活動が盛んになり、新たな文化が構築し始めています。

今年荒川で初めて、東京国体のボートの会場になりました。



□ 岐阜県白川町 高木 勝彦 建設環境課長

今日は白川町が合併して47回目の“誕生日”ということで式典がありまして、町長が出席できず、代理で参りました。

また、長い間お世話になりました今井良博町長ですが、今年9月12日の任期をもって退任致しまして、新たに13日からは横家敏昭町長が着任しました。今後お世話になるとは思いますが、よろしく願い申し上げます。

昨年の11月2日・3日、「全国水源の里シンポジウム」を開催させていただきました。今日お集まりいただいている皆さんの中にも、お越しいただいた方が多くいらっしゃると思います。



□ 岐阜県揖斐川町 高橋 径夫 総務部長

揖斐川町は揖斐川の最上流部に位置していることから、水源地域としての誇りと責任を持って、豊かな森林が育んだ安全で安心な水を下流域の皆様へ届けることが、最上流部の自治体に課せられた責務であると考えています。そのため、森の手入れを行い川の水が汚れないようにする等、住民を挙げて環境の保全に努めています。

揖斐川の最上流部に建設されました日本一の総貯水量を誇る徳山ダムでは、ダム湖周辺の広大な水源林を保全するために、平成19年に策定された「揖斐川水源地域ビジョン」に基づき建設した体験学習施設「水と森の学習館」を活動拠点に、水源地域の自然環境や野生動物の保全のための様々な施策を展開しています。流域の方々に水源域の大切さを知っていただくための取り組みとして、揖斐川の水源地域で採取した木の実から作った苗木を、下流の小学生に育ててもらい、大きく育った苗木を元の水源地域に植栽する「苗木のホームステイ活動」といったものを行っております。また、間伐や下草刈りといった森林管理の体験、ダム工事跡に野生動物の餌となるドングリやナラ等の広葉樹を植える「実のなる木を植えよう大作戦」等の環境学習をしております。



□ 兵庫県加古川市 樽本 庄一 市長

兵庫県の北から南まで流れているのが加古川です。下流である加古川市から見て、あまり綺麗な水が流れて来ませんので、我々は加古川の流域、当初は7市10町、合併後は8市3町で、工業団体、住民団体、スポーツ文化団体にも入っていただきまして協議会を作りました。やはり南北交通が良くありません。堤防の右岸・左岸の両方を走っている状況ですので、余計に南北軸の関係が薄れないようにこの協議会を発足しましたし、併せて加古川の河川改修もこの協議会でいろいろと協議を行っています。また、当流域だけで8000もの「溜め池」があります。河川と溜め池とそして我々海岸部と、水辺を大切にしようということは、地域特有のものだと思いますが、川から生まれたものであります。



□ 長野県栄村 島田 茂樹 村長

長野県は77市町村ありまして、北海道に次いで市町村数が多いのですが、その中で川上村は長野県の一番東の端、栄村が一番北の端です。

千曲川の源流から213km程、栄村までありますが、日本一長い千曲川・信濃川の間地点に位置しています。

私共の村と飯山市・野沢温泉村・新潟県津南町の約40kmの流域が“県管理”となっていて、毎年要望していますが、今のところ見通しが無いということで、是非“直轄編入”でお願いしたいと要望します。



□ 長野県木島平村 芳川 修二 村長

栄村の隣、千曲川には隣接していませんが、支流の樽川・馬曲川の扇状地に広がる小さな村です。

実はうちの村には溜め池が一つもございません。そんな中で非常に長きに亘り稲作を行っており、美味しいコメの産地として歴史を育んできました。

木島平村では、「農村文明」という新しい価値観を作りました。これは「日本の文化の源流は稲作にある」という表現をして、稲作農業が持っている希代の価値をこれからの時代に活かそう、というものです。一度ホームページでご覧いただければと思います。



□ 長野県飯山市 月岡 寿男 副市長

飯山市は現在の千曲川・信濃川のちょうど中間地点にありまして、現在国道403号の橋の架け替えをしていますが、この橋の名前の「中央橋」は中間地点であるからだと思っています。中央橋は長野県下で初めて採用となる「エクストラゴールド橋」で、大変美しい橋のようなので、新たな観光スポットになるかと、期待をしています。

また先般、「道の駅 花の駅 千曲川」が全国で第3番目に“綺麗で使いやすい”ということで女性誌に取り上げられ、現在女性客の皆さんが押し掛けて来ている状況です。

それから千曲川では現在かなりの皆さんが、カヌー、ラフティング、遊覧船を楽しんでおり、年々増えています。新幹線の開業によりますます増えるものと思っていますし、努力をしなければなりません。新幹線の駅の広場も「千曲川口広場」と先頃命名し、一層千曲川と飯山市が切っても切れない状況だと感じています。



□ 長野県中野市 池田 茂 市長

合併した旧豊田村と旧中野市の間に、千曲川があります。

中野市もラフティング等で子どもの教育「川と親しむ」という活動をしています。私もラフティングをやってみました。川に直接触れる、そして救命胴衣を着けて浮かぶ、ということをして“親水”という形でやっております。今年は256名の子ども達が参加しました。

“親水”については、「都市における親水」と「地域における親水」は形が異なるかと思いません。造っても誰も遊ばないとか、そういったことではなくて、自然に戻すとか、自然の豊かさを提供する、過ごしたかった日常という形で都会の人に安らぎを与えるような親水性を追求していただければ誠に有り難いと思います。



□ 長野県千曲市 山本 高明 副市長

平成15年に1市2町が合併して誕生しました。その時に新しい市の名前を市の中央を流れる千曲川からいただきまして、「千曲市」とさせていただきます。

流域文化の取り組みを一つ紹介させていただきます。

「食」というものが流域文化の最たるものと考えておりまして千曲市では県と共催しまして、9月14・15日に「千曲川地域ブランドフェア～千曲川マルシェ～」を開催しました。ここでは千曲川沿線地域、最上流の川上村から飯山市まで、広域連携として、千曲川ブランドの商品を始め、各地のご当地ブランドの店舗や道の駅、農産物直売所等に出展してもらい、千曲川流域の恵みによりもたらされる“食の魅力”を広く県内外にアピールしていこうということで開催しました。その中では、千曲川沿線の市町村の紹介、ご当地キャラクターの登場、千曲川に関する発表、30市町村のポスター・チラシの掲示、14市町村のPR用DVDの上映等、千曲川流域の発表の場とさせていただきます。27の市町村が参加し、店舗は69ブースになりました。一般の来場は3,200人と大変多くの方に来ていただきました。

このように、川の恵みをもたらす食を中心としたイベント開催等を通じて、“千曲川共和国”とも言うべく、連帯感を高めていければと思っています。



□ 長野県上田市 母袋 創一 市長

私からここに並んでおられる首長は、今日はオブザーバー的に来ているということで、“ひと言ずつ”ということで話し合いました。

ひと言だけ言わせていただくと、川の文化はやっぱり守っていかなければいけないし、治水はもちろん、環境、利水、これを私は強めたいと思いますし、“デザイン”という話、ようやく日本



でもそういう言葉が川についても出て来たかと大歓迎ですので、是非これは地方とともに国の意気を見せてもらいたいと思います。

最後にもう一つ、10月下旬、毎年4~500人でやっております、千曲川の河川敷の一斉ゴミ拾いを今年も行います。

□ 長野県小諸市 柳田 剛彦 市長

私以降の市町村は、川上村と同じ「佐久広域連合」のメンバーです。私以降は自己紹介のみにさせていただきます。小諸市長の柳田でございます。どうぞよろしくお願い致します。



□ 長野県佐久市 柳田 清二 市長

佐久市長の柳田清二でございます。本日はよろしく申し上げます。

□ 長野県佐久穂町 佐々木 定男 町長

南佐久郡の佐久穂町長の佐々木でございます。本日はありがとうございます。よろしく申し上げます。



□ 長野県小海町 新井 寿一 町長

南佐久の小海町の町長、新井寿一と言います。今日は大変ご苦勞様です。よろしく申し上げます。

□ 長野県南牧村 菊池 幸彦 村長

川上村の隣の村、南牧村の菊池幸彦です。よろしく申し上げます。



【第2日目】

9月29日(日)

第22回 全国川サミットin川上

オープニング「千曲源流太鼓」

開会式

川上第二小学校児童による

「千曲川河川環境調査発表」

記念講演 「流域文化に学ぶ」今井通子氏

アトラクション 「クラリネットトリオ ルイエ」

サミット式典



① オープニング「千曲源流太鼓」

昭和62年に旗揚げした和太鼓グループ。メンバーは20～50代で村内外のイベント等で活動。今回は、地元中学生を加えた“川サミットだけの特別チーム”を結成。子どもたちと共に川上村の自然豊かな情景を和太鼓の音色で表現しました。



◎長野県知事 阿部 守一 氏 祝辞

山に源流を発する川から様々な恩恵を受けて暮らしが成り立っている訳ですので、是非この機会にもう一度足元にある価値を見直して、川の豊かさ、恵みといったものを次世代に引き継いでいく、そうしたサミットにさせていただきたいと考えております。

そして川の豊かな側面だけではなく、いざ災害というときの対応もしっかりやっていかなくてはなりません。長野県から発した川は必ず他の県を通じて海に注いでいますので、「治水」ということを考える時、他の地域の皆さんと一緒に同じ方向を向いて取り組んでいくことが重要だと思っております。そういう意味で、河川に非常に関わりの深い自治体が集まって議論をしていただくことは大変意義深いと思います。皆さんの力で川を守り、そして川を活かす、そういった方向付けをしっかりとっていただくことを心から期待を申し上げます。

このサミットを契機に、川に対する理解がますます深まりますよう、そして川に関係する自治体、そして住民の皆様方の絆がますます深まりますことを心から期待申し上げて、私のお祝いの挨拶とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。



② 第22回全国川サミット in 川上 開会式

- ・主催者歓迎挨拶 川上村長 藤原 忠彦
- ・来賓祝辞 国土交通省北陸地方整備局 河川部長 入江 靖 氏
- ・来賓紹介
- ・参加自治体紹介



③川上第二小学校児童による「千曲川河川環境調査発表」

本サミット開催にあたり、長野大学環境ツーリズム学部教授の高橋大輔先生の指導の下、川上第二小学校5年生が千曲川を環境教育素材として「指標生物」を用いた河川環境調査を実施しました。

結果をまとめ、資料を作成して、サミット当日に発表を行いました。

[1]河川調査

8月8日（木）、千曲川中流の上田市千曲川・浦野川合流地点と川上村内の上流域の2カ所で河川調査を実施しました。

朝9時30分、上田市の「上田 道と川の駅」にバスで到着した川上第二小の児童たちは、高橋先生から調査方法の説明を受け、4つの班に分かれてゼミ生4名とともに実際に川に入り、水生生物を採集して、その種類や捕獲数とともに、水温・川幅・におい・石の形や大きさ・植物の特長などを観察しました。

道と川の駅で地産地消メニューの昼食をとった後、バスで川上村へ移動。第二小より更に上流で、中流と同様に観察。その違いに関心を示すとともに、日頃目を向けたことがない小さな生物について、高橋先生やゼミ生に名前を聞くなどし、身近な存在である千曲川から新たな発見や理解が数多く見られました。

[2] 調査結果のまとめと発表資料の作成

調査から約3週間後の8月30日（金）の午後、高橋先生が川上第二小の教室を訪れ、調査のまとめと発表資料としての「壁新聞」の作成について指導を行いました。

高橋先生は「調査で分かったことをサミットに来た人に伝えるように」という視点からまとめ方を説明した後、調査時の4班ごとに壁新聞の「構成」を話し合いました。この日は模造紙にまとめる前の作業として、A4判の用紙に紙面構成を検討。絵が得意な児童が生物のイラストを描いたり、不明な点について高橋先生の指導を求めたりしながら、壁新聞づくりに取り組みました。

以降、何日かの指導・作業を経て、4つの壁新聞が完成しました。



◎調査結果をまとめた各班の発表資料「壁新聞」

▶1班

水生昆虫調査

いつ 2013年 8月8日
どこで 上田市浦野川×川上村
どんなふうに 千曲川

おみせ快、たり石さか、くり返してつかえた。

結果

上田浦野川(水生昆虫)
アメリカザリガニ、水カマキリ、ヒル、タイコウチ、ヤマトシジミ、スジエビ、コオニヤンマ、アブラハヤ、クワ、ヒヤクガトビ、ケラ、マエビ、クダイ

川上浦野川(水生昆虫)
カワゲク、ヒゲナガカブト、ヒゲナガカブト、マダラヒゲナガカブト、ツリトビガサ、イナゴ、カマキリ

水質表

千曲川 上田	川上(上流)
水温	28℃
川幅	約6m
水深	約50cm
水深の浅さ	浅い(60cm/秒以上)
川の底	頭大の石が多い
水におい	においが感じられる
水に藻	少しに藻が着いている
指標生物	アメリカザリガニ、ヒゲナガカブト、ヒヤクガトビ
ヤマトシジミ	ヤマトシジミ

感想

川上村の千曲川と上田の浦野川の川は、水の色がぜんぜんちがって、温度もちがいました。そして上田の浦野川と川上村の千曲川は川の底がちがって、石の大きさもちがっていました。

▶2班

千曲川調査新聞

川上第二小学校 5年 2班 古原 留 藤 沙のり 井出 悠希 藤田 友輝 風間 上葉 井出 聖空

2013年8月8日に上田(浦野川)と川上(川上村)で、川上村の川上で行なわれた。それには川上第二小学校5年生が参加した。みんな石をみたりおみせ快でつかえた。おみせ快でつかえた。

調査結果

上田(中流)	川上(上流)
水温	28℃
川幅	約6m
水深	約50cm
水深の浅さ	浅い(60cm/秒以上)
川の底	頭大の石が多い
水におい	においが感じられる
水に藻	少しに藻が着いている
指標生物	アメリカザリガニ、ヒゲナガカブト、ヒヤクガトビ
ヤマトシジミ	ヤマトシジミ

感想

川上と上田の間だけでもおんなじに川がよごれておみせ快でつかえた。それから川をよごさないようにしたいです。

▶3班

水質調査をしたよ新聞

メンバー 伊藤 孝美・村 ことよ美・鶴田 和基 中村 優希・鈴木 可麻

水質調査の結果

水質調査の結果、川の水は汚れていると感じた。川の水は汚れていると感じた。川の水は汚れていると感じた。

水質調査の方法

水質調査の方法は、川の水を採取して、その色やにおいを観察した。水質調査の方法は、川の水を採取して、その色やにおいを観察した。

感想

川の水は汚れていると感じた。川の水は汚れていると感じた。川の水は汚れていると感じた。

▶4班

川の性質調査新聞

川上第二小学校 5年 4班 藤原 悠希 藤原 悠希 藤原 悠希

2013年8月8日、千曲川中流と川上村の川上で行なわれた。それには川上第二小学校5年生が参加した。みんな石をみたりおみせ快でつかえた。おみせ快でつかえた。

調査結果

千曲川中流(川の駅)	川上(川上村)
水温	28℃
川幅	約6m
水深	約50cm
水深の浅さ	浅い(60cm/秒以上)
川の底	頭大の石が多い
水におい	においが感じられる
水に藻	少しに藻が着いている
指標生物	アメリカザリガニ、ヒゲナガカブト、ヒヤクガトビ
ヤマトシジミ	ヤマトシジミ

感想

川上と上田の間だけでもおんなじに川がよごれておみせ快でつかえた。それから川をよごさないようにしたいです。

◇長野大学・高橋大輔教授の総括

今回実際に子どもたちが感じたように、上流と中流では川の雰囲気やそこに棲んでいる生物が大きく違って、特に中流の方が棲んでいる生物の種類が多かったということにも気付けたと思います。

指標生物を使って水質を調べたところ、上流の方が非常にきれいで中流が少し汚れているという結果が出た訳ですが、基本的に川は下流に行く程周りからいろんなものが流れ込んでくるので汚れてきます。この汚れは水の中に栄養分がたくさん含まれてしまうことで起こるものです。少し皆さんに注意していただきたいことは、上流のようなきれいな水だけ川にあれば良い訳ではありません。川は下流に行くに従って少しずつ養分が増えて、水質が変化し、それぞれの水質に合った生物が存在しているので、川全体の生物多様性を考えると、水質の異なった環境があることが望ましいと言える訳です。とは言え、川の上流を汚し過ぎると中流・下流はもっと汚れ過ぎてしまうので、そこには注意が必要だと思います。

今回、川をフィールドにして調査をしましたが、川だけでなく、川と森、森と海、というように、自然環境は水や生物を通じて繋がっている訳です。日々の暮らしの中で自然環境との繋がりを意識することが、千曲川や長野県全体の自然環境を守っていく上で大切だと思います。

◇川上第二小5年生担任・河合旗与昂先生の感想

中流に行って最初に子どもたちが驚いたことは、川の水の色、におい、そして棲んでいる生物の違いでした。また中流には少しゴミがあることも上流と違っていました。

川上村に戻って上流の水質調査をすると、上流の方が棲んでいる生物の少ないことが判りましたし、普段目にしていないカジカ・イワナの稚魚を見付けたりしながら楽しく調査を行いました。

新聞を作りながら、川は自分たちが住んでいる上流から流れていることを感じて、このきれいな川を大事にしていかなければいけない、そんな川に対する思いが持てた水質調査になったと思います。



④記念講演 「流域文化に学ぶ」今井 通子 氏



実は今日は「流域文化に学ぶ」という演題をいただいていたんですが、ご存知のように今般、高知県沖から北上して愛知県豊田市付近から上陸した台風18号が、四国から北海道にかけて甚大な被害をもたらしましたので、初めはその台風18号について、ちょっといろいろ思うところもありますので、その辺からお話を進めさせていただければと思っています。

台風18号、特に京都辺りが凄かったんですけども、9月16日の5時5分に大雨特別警報、いわゆる初の特別警報というのが滋賀県と福井県と京都府に出されました。その後避難警報だの避難指示だのが出されていって、京都府の人口の5分の1は避難指示を受けているというのが、ちょうど大雨特別警報が出てから4時間後でした。その他にも大阪府ですとか愛知県ですとか、長野県にも避難指示がありました。それから特に避難勧告は長野なんか随分あったようですが、11時現在では18府県約6,000世帯が、自主的に避難までしたという大騒動でした。

そして、氾濫危険水位を超えた河川について発表がありまして、これを見ながら、じゃあどれくらい降ったんだろうと思って、気象庁のデータを探ってみてみたら、台風の進路に沿って、15、16日の2日ともちょっと濃いブルーなんですけど、15日の日に集中的に降っちゃって、それも13時から翌日の0時まででした。そして16日の日は、だいたい1時半くらいにはほとんどのところ雨じゃなくて太陽が出てきているという状態でした。

その他にも、三重県の太田井町580ミリ、これは48時間だったと思うんですが、奈良県の北山町の543ミリなど、全体では20以上の観測地点で過去最大のミリ数が記録されたようです。

京都府の福知山市の由良川が「氾濫してます。」っていう報道とともに、テレビ画面に映ったんですが、どこが川なんだろうっていうくらい周りにも浸水地がありました。実際に道路がしっかり水没しちゃって、電信柱だけしか見えないようなところもありました。またこれは滋賀県の大津市の大戸川の周辺なんですけれど、ここも、「氾濫してます。氾濫してます。」っていう報道があったんですけど、よく見ると、川の形がこっちは分かるんですね。そんなにひどい浸水っていう形ではなかったような気がしました。大津の市内の方は、川の水が道路を流れてましたが、よく見てみたら、川の氾濫とは全然関係無さそうでした。流れの具合がどちらかというと坂の上の方から流れ落ちて来る。すなわち道路が川になって出てきている水、それが勢いよく、川に向かって流れ込んでいるという、そういう状態でした。

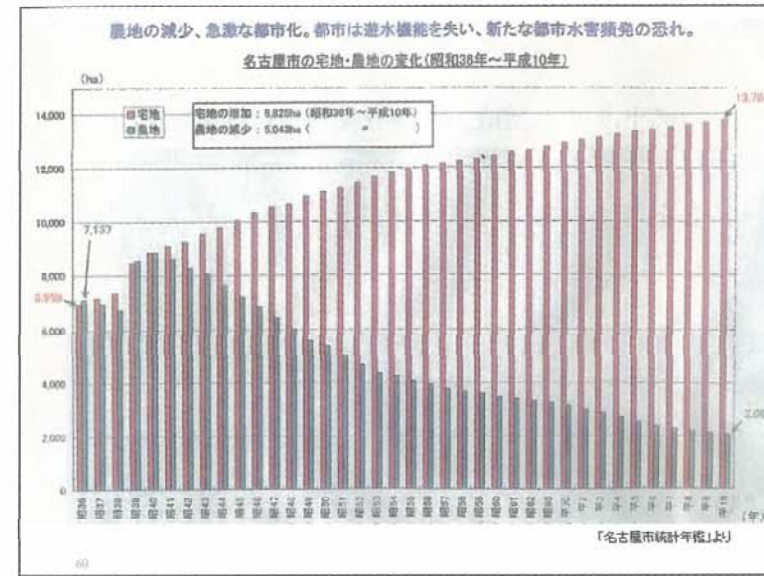
それと、京都府の渡月橋のところが凄い浸水ですって報道してたんですが、確かに欄干のところは冠水しているのが見えていたんですけど、こちらの方も、ちょうど川の左岸の方が嵐山があって高いところなんですけど、高いところの方から道路を伝って流れてきた水が逆に川に入って、それで川の水かさが増していったような、そんな気がしたんですね。

実はこれを見ながら、はたと気付いたというか、思い出したことがありました。実は2000年前後の頃、私たち山を登りますし、自然の中で行動することが多いので、気象には割と敏感なんですけど

れども、今までに見たこともないような等圧線の凄い狭い、しかも3日に亘って日本全体をなめていったような低気圧がありました。で、当時山に登る人たちに気象遭難に気を付けてもらうための講習とか行っている時にはどういう説明をしていたかっていうと、「集中豪雨」というのが新しく出てきました。それから巨大化もしくは連続した台風、今回も3つ来て、18号だけが上陸したんですけども、19号はまっすぐ北上して、20号は東側に抜けていきましたよね。昔は台風が1回来ると必ずその次には晴天があつて、すっきりとして、台風の後はいいい天気になったんですけど、最近では、3つ並んで来てもまだ雲があるっていうような状態があつたりして、台風は巨大化するか、または連続して来るっていうことにも気を付けなくてはなりません。山登りなんかでも、1個やり過ぎたから明日は晴天だろうからって行って、スケジュールを続行したりすると痛い目に遭うという、そんなこともあつたんですね。それともう一つは、暴れると大きい低気圧、一番最初にお見せした低気圧なんですけれども、当時は“暴れん坊”とか私たちは名前を付けてたんですけど、後（のち）にね、気象庁ではなく、マスコミが「爆弾低気圧」という名前を付けました。それがちょうど2000年です。そんなことがあるので、大局的に見て、天候というよりも、気象そのものがいろいろ変化してきているっていうことです。南極の昭和基地の30万年分の間氷期と氷河期を表してるデータから、気温の差なんですけども、30万年前くらいにはだいたい9000年くらいの間氷期があつて、後は氷河期に入ってしまう。また間氷期があつて氷河期に入る。これはまあ同じようなパターンでいくんですけども、私たちのいる現代、この辺のところで違ふなって思えるのは、この一気に入る氷河期から間氷期に入りますけれども、間氷期に入ったら、入る時にかなり天候に異常な気象っていうか、上下が激しい温度になってますし、これから氷河期に入っていこうとするこの時点でもかなり気温の上下が激しくなっています。今、国際的には「温暖化」とかって言ってますけど、もう5～6年前から温暖化だけではなくて、「冬の寒さも尋常じゃない」ということで、山では低体温症による凍死というのが増えてきたりしてます。昨年に、私は東京の世田谷に住んでいるんですが、家の中にいらした方が2月に凍死しているんですね。というふうに気温そのものの上下の激しさが増しているんで、暑い時と寒い時に注意が必要です。私たちが慣れて生活してきた今までと違ひまして、例えばガソリンスタンドの人たちなんか、ガソリン入れたりなんかしていますが、温度が40度くらいになってもまだだだっというものが、それがそれ以上だとすぐに揮発して爆発を招くとかっていう話があつたり、



いろいろです。
特に日本だけのことでなくて、これがヨーロッパなんかの場合には、温暖化の激しさも日本の比ではなく、水害の激しさも日本の比ではなく、2003年にフランスを始めとして、かなり暑かった年がありまして、2003年の熱中症による死者って8万人くらいいたんですね。日本ほどクーラーの設備が無かったものですから。ただ対応は凄く早くて、翌年には官的



なつてしまった。いわゆる「都市型の水害」というのが、単に川だから堤防が決壊して堤内に水が入ってくるっていう昔のパターンではなく、むしろ川とは全く関係無く、道路の上の方から下の方に向かって川がいっぱい出来ちゃうとか、そして低地のところに水が溜まってしまふとかが起きました。この時に農地の減少と急激な都市化で、都市は流水機能を失い、新たな都市水害頻発の恐れって、もうこの時に言ってるんですよ。なのに実はその16日に朝から見ていたテレビで報道していたのは、まるで川だけが変な扱いで、堤防が切れたからみんなあっちこっち冠水したとか水没したんだみたいな言い方がずっとされていて、違ふでしょ！って。別のとこ見てください！映ってますよ！

全然川とは関係無く、遊水地が無い上に、または都市の形態ゆえに道路をどんどん水が滑り落ちて来るとか、そういうのあるんです。

この名古屋のいわゆる東海豪雨以降、専門家の間では、国を始めとして市町村も、遊水作戦、都市型の遊水作戦というのをいろいろなさっているのを私は存じ上げているんですが、そういうことに対してあまりにも一般の人たちが知らないっていうか、豪雨になった時に、水害になるのは“全部川のせい”だみたいな。未だに報道関係がそんなこと言ってるっていうのがちょっと腹立たしかったかなっていうような気もしていま

(今井氏ご講演の一節より)



⑤ アトラクション「クラリネットトリオ ルイエ」

桐朋学園大学の同期である3人が、2010年にトリオを結成。卒業後も研鑽を重ね、東京・長野等で活動。

今回の「全国川サミット in 川上」に向けて心を込めた選曲で、若さ溢れる3人がそれぞれの“故郷の川”を想いながら、三重奏を披露しました。



宮田 愛子 (兵庫県出身)

西村 夏葵 (長野県出身)

平井 麻奈美 (大阪府出身)

— Program —

『愛の挨拶』(エルガー)

三重奏曲Op.11『街の歌』第1楽章(ベートーヴェン)

=“川”にまつわる曲(ルイエ オリジナルアレンジにて)=

『千曲川』(五木ひろし)

『川の流れのように』(美空ひばり)

『Moon River』(ヘンリー・マンシーニ)

歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より『間奏曲』(マスカーニ)

『愛の喜び』(クライスラー)

⑥ サミット式典

・全体総括 川上村長 藤原 忠彦



・サミット宣言 川上第二小学校5年生 & レタ助



・サミット旗 受渡式



・次期開催地 挨拶 香取市長 宇井 成一 氏



第22回全国川サミット in 川上

共同宣言

千曲川は、長野県、山梨県、埼玉県にまたがる甲武信ヶ岳を源としています。肥沃な盆地を形成しながら北流し、新潟県に入って信濃川と名前を変えて日本海に注ぐ、日本一長い川です。

「第22回全国川サミット in 川上」は、千曲川の一滴が湧き出る川上村を会場に、「流域文化に学ぶ」をテーマとして開催しました。

さまざまな産業を支え、地域の文化を育み、人々の心を潤す川の恩恵を再認識し、これからも川と共存する地域づくりに取り組むことを誓い、ここに宣言します。

- わたしたちは、川の歴史を見つめ、先人が培った知恵を学び、次の世代に引き継ぎます。
- わたしたちは、みんなが安心して暮らせるように、災害に負けない地域づくり・川づくりを進めます。
- わたしたちは、清らかな流れを守るため、豊かな自然環境の保全に努めます。
- わたしたちは、未来を担う子どもたちに、川の大切さを学ぶ機会や川とふれあう機会を提供し、川を愛する心を育みます。
- わたしたちは、人と地域を結びつける川との共生を確認し、全国の川に関わる人々の交流の輪を広げます。

平成25年9月29日

第22回全国川サミット in 川上参加者一同

◎参加自治体 記念撮影



II 実施内容(3)

【展示・併催イベント】

◎ 参加自治体紹介パネル



◎ 川上第二小学校児童による「千曲川河川環境調査発表」展示



◎ 江口君男「ふるさとの風景 千曲川の源流に魅せられて」写真展



◎ 藤岡牧夫「ささ舟カヌー 千曲川スケッチ」原画展 ※10月6日(日)まで開催。



◎ 川上村物産フェア



Ⅲ 第22回全国川サミットin川上を振り返って

※藤原忠彦村長の「全体総括」の要旨

川と言うと、災害とか危険とかというイメージが最初に来ますが、地域と川の関わり合いというのは大変素晴らしいものがあります。世界的に見ましても、文明の発祥地は川の流域であります。ナイル川も、そしてまた揚子江も、黄河も、大変素晴らしい古代文明を生み出しています。ですからやはり、文明や文化は川の流域から、ということかと思えます。

ここにご参会の皆様方、それぞれその地域の文化や文明が伝えられてきているとは思いますが、まだ相当いろいろなものが内在していると思えます。それを掘り起こして、新しい文化を創造するために、新たな挑戦をしていかなければいけないと感じております。

今回のサミットで、今井先生の講演では「遊水地」の問題がありました。確か、昔の河川工法では下流地域に遊水地を造るという工法がとられております。川上村では、私が覚えているところでは、そういったところを「かすみ」と言っておりました。今は本当に土地を有効に使うために、全く切れ目の無い堤防になっております。昔の知恵で本当に大水が出た時には、そこに一時水を溜めるというようなことが、残っていたのですが、現代ではそれまで埋めて利用しています。ですから今井先生が言われたように、名古屋のような都市水害が発生してしまいます。

そんなことも考えさせられた今回のサミットであります。自然の摂理というものをやはりしっかり考えていかなければいけないということを、改めて考えさせられました。

川上第二小学校児童の事例発表では、自分たちがいつも目にしている千曲川の上流と、中流地域の上田市の2カ所において、みんなで川に入り、虫や魚を採取し、水中生物の生態を調べ、興味深い成果を示していただきました。今後の河川愛護や環境づくりのために前向きな活動を期待しています。

大正時代まで千曲川は今のよう横断柱橋等無かった訳で、川上村でもサケが獲れたという記録が残っています。

そして今は物流と言え、トラックか鉄道ですが、当時は川を使って木流しをして、善光寺地震の復旧の材料を川上から提供したという話も歴史の中に残っております。江戸城の改築の材料に、川上から佐久まで川を使って流して、それから中山道で江戸まで運んで江戸城を造ったという話も残っています。

そういったことから、川というのは昔から地域のための大きな資源であります。

川を想うコンサート、クラリネットトリオのルイエさん、我々がいつも口にしている「千曲川」や「川の流れのように」といった曲を、大変素晴らしい演奏で聴かせていただきまして、何か心が和むようなひとときでありました。

藤岡牧夫先生の原画展では、感動と癒しを与えていただきました。本当にありがとうございました。

これからは全国川サミットにおける流域市町村の皆様と、更なる情報交換をして、連携を深めていかななくてはならないと考えております。

川の水が、その川の始まりが、一滴の雫から始まる訳であります。このように一つ一つのことを積み上げ、やがては素晴らしい文化に発展していくものと確信しています。

今後の皆様方の発展を祈念し、このサミットの総括と致します。

皆様、本当にありがとうございました。